

NPO法人「梨想の会」がプロデュース!

巻頭特集

ダイヤモンド筑波で

# 絶景

## ウェディング

# Diamond Tsukuba!

メンバーと地域の力で紡ぐ  
想いあふれる手づくり挙式

筑波山の鑑賞&撮影スポットとして知られる筑西市飯田の母子島遊水地。筑波山をバックに望む四季折々の自然や、美しい稜線が水面に映る様はまさに絶景です。なかでも、山頂が朝日で輝く「ダイヤモンド筑波」は年に2回しか見られない絶景中の絶景。昨年10月、この神秘的で幻想的なロケーションのなかで結婚式が開かれました。挙式をプロデュースした「梨想の会」のみなさんに、地域おこしの活動にかける想いを伺いました。

### ダイヤモンド筑波とは?

筑波山の山頂付近から朝日が昇る、10月28日午後と2月14日前後の年2回だけ見ることのできる神秘的な絶景。山頂から朝日が覗く瞬間、光彩がまるでダイヤモンドのように光り輝くことから名付けられました。風の静かな日は水面が鏡のようになり、「ダブルダイヤモンド筑波」が見られることもあります。



映える舞台を丘面に用意して人前式を挙げ、最高の瞬間を写真に残してプレゼントするというプランでした。

プロジェクトの進行役として白羽の矢が立ったのは、当時、半年ほど前に会員となつたばかりの石塚桂子さん。関城露台郵便局の局長も務める石塚さんのキャリアと行動力、そして地域貢献に向ける熱意が今回の抜擢の理由です。

「前例がないので何が正解なのか分からないなか、活発な意見交換を重ねて企画を練っていききました。筑波山は国生みの神である伊弉諾尊(いざなぎのみこと)と伊弉册尊(いざなみのみこと)を祀ることから、神話に基づいた衣装を用意するアイデアや、潮来の花嫁さんをモチーフにして遊水地を舟で渡るアイデアなども出ましたね」と石塚さん。さまざまな演出を検討してたどり着いたのが、ダイヤモンド筑波を背景に二人が

ダイヤモンドの宝石言葉は、永遠の絆。大きなダイヤモンドの輝きの中で式を挙げた二人の絆が固く永遠に結ばれるようお願いを込めて、結婚式の準備は手づくりで進められていきました。建築現場で使用される単管パイプとコンパネで舞台を組み上げ、遊水地の近くに土地を持つメンバーの協力を得て駐車場も確保。地元の生花店からブーケとブーティア、市民グループちゅくたくがから動画撮影とDVD制作など、心のごもった記念品の支援もありました。そして、カメフラマンを務めるのは、梨想の会のメンバーでありアマチュア写真家として20年前からダイヤモンド筑波を撮り続けている関口さんです。メンバーや地域の力が結びつき、いよいよ10月30日の挙式当日を迎えました。

### INTERVIEW

挙式したお二人へインタビュー



**かすみがうら市在住の塚本将至さん、ももさんご夫妻**  
この企画を知るまでダイヤモンド筑波を知りませんでした。ダイヤモンド筑波を実際に目の前にし、素晴らしい景色の前で式を挙げることで普通の結婚式では味わえない心に残るとても良い思い出になりました。正直早朝で天候に左右されるということもあり、家族や友人を招待するかはとても悩みました。しかし来てくれた家族や友人も景色に感動していてとても喜んでくれたので良かったです!

筑波山に見守られ感動の挙式  
奇跡の一瞬が永遠の想い出に

ダイヤモンド筑波をバックに式を挙げるのは、事前の募集によって選ばれた県内在住のカップル。2年前に結婚したもののコロナ禍の影響で挙式が2度も延期となり、キャンセル料で予算がなくなってしまうことで挙式を諦めていたそうです。「応募の際、A4の紙いっぱい心に書いてくれたことが選考の決め手です。『想い』を大切にしたいと考えていたので、お二人の気持ちに心を打たれました」と石塚さん。地域の原風景であり縁結びのシンボルでもある筑波山

2017年(平成29年)9月にNPO法人になりました!



NPO法人 梨想の会 / 理事  
石塚 桂子さん

梨をつかった地域おこし  
ユニークな企画で魅力をPR

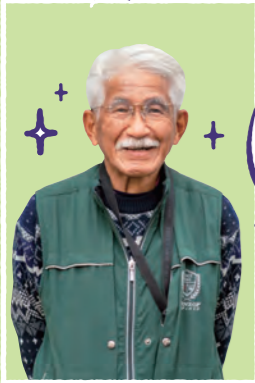
旧関城町主催のまちづくり講座を受講したことをきっかけに、横島正利さんを中心とする関本地区の有志によって発足された「梨想の会」。平成16年に活動を始めて以来、イベント開催や観光看板の設置など、さまざまな地域おこしを手がけてきました。梨を想うという名称のとおり、町内の小中学校などに梨の木を植栽したり、梨の花が見頃を迎える4月に「梨の花まつり」を開催したりと、地域の特産物である梨をテーマにした活動が多いことが特徴です。

「4名で発足した会も次第にメンバーが増え、元県職員や大企業の役員など、さまざまな経験や知識を持つ方が仲間に加わりました。それぞれの得意分野をいかし、ほかではやっていないような企画のアイデアを出しあいながら活動を続けています」と横島さん。その企画力や実行力をいかし、地域の誇る観光資源であるダイヤモンド筑波のPRにもひと工夫を加えることに。「大きなダイヤモンドが出るのなら結婚式をやれば面白いのではないか」という理容師さんのアイデアをもとに、ダイヤモンド筑波ウェディングプロジェクトがスタートしました。

に見守られ、集まったたくさんの方々の祝福を受けながら、念願の挙式を叶えられたことに新郎新婦の感激もひとしおです。

2月半ばに開催される第2弾のダイヤモンド筑波ウェディングに向けて「とにかく寒い時期なので防寒対策がいちばんの課題。前回の反省点も踏まえつつ、より良い企画となるよう工夫を重ねて今後も続けていきたいです」と意気込みをみせる石塚さん。フォトコンテストの開催でイベントをさらに盛り上げるほか、愛称が「ダイヤモンド筑波駅」となった常総線黒子駅の標識づくりや駅から母子島遊水地へのルートづくりなども計画中のこと。地域の貴重な観光資源がより輝くよう、梨想の会の活動はいきいきと進化を続けています。

梨想の会メンバー  
MEMBER



イベントの知名度アップは大成! 今後も無理無く続ける方法を検討します

副会長  
とりゅう  
鳥生 厚夫さん



神秘的な景色の場所での結婚式でした。皆さんありがとうございます

理事  
横島 正利さん

特定非営利活動法人  
**梨想の会**  
【事務局】筑西市関本肥土362番地



1月号にご登場いただいた地域おこし協力隊の谷島さんも飛び入り参加!